

ESA の紺碧 AD およびオフィス 365 メールボックスの設定方法設定

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[背景説明](#)

[ESA の紺碧 AD およびオフィス 365 メールボックスの設定方法設定](#)

[紺碧の新規アプリケーションを登録して下さい](#)

[アプリケーションのための必要なアクセス許可を設定して下さい](#)

[アプリケーションの明らかな準備をして下さい](#)

[明らかな編集して下さい](#)

[\(オプションの \) 明らかなダウンロードして下さい](#)

[\(オプションの \) 明らかなアップロードして下さい](#)

[アプリケーションのためのクライアントID を得て下さい](#)

[アプリケーションの借用者 ID 値を取得して下さい](#)

[必要な値を確認して下さい](#)

[ESA を設定して下さい](#)

[ESA のトラブルシューティング](#)

[トラブルシューティング紺碧 AD](#)

[\(オプションの \) 標準的なポータルを使用して紺碧のアプリケーションを作成し設定する方法を](#)

[アプリケーションを追加して下さい](#)

[アプリケーションを設定して下さい](#)

[明らかな管理して下さい](#)

[借用者 ID を見つけること](#)

[関連情報](#)

概要

この資料は Windows 紺碧の新規アプリケーションを登録し、Cisco E メール セキュリティ アプリアンス (ESA) のオフィス 365 メールボックス設定のための設定を完了するために必要な値を得るためにステップバイステップ「ハウツー」を、提供したものです。 ESA 管理者が ESA のメール ポリシー設定の Advanced Malware Protection (AMP) のためのメールボックス オート治療 (3 月) を設定するときこれが必要となります。

前提条件

関連製品

この資料は次に適用します:

- すべての ESA、10.x を実行するハードウェアおよびバーチャルおよびより新しい

- 10.x を実行するすべてのクラウド E メール セキュリティ (CES) ESA およびより新しい

要件

この資料は次を必要とします:

- [オフィス 365 アカウント サブスクリプション](#) ([オフィス 365 アカウント サブスクリプション](#)が E-メールを送るためにアクセスが含まれている企業 E3 または企業 E5 アカウントのようなことを確かめて下さい。)
- [Microsoft 紺碧](#) アカウント
- オフィス 365 および Microsoft 両方紺碧 AD アカウントは `user@domain.com` アクティブな eメールアドレスにきちんと結ばれ、そのドメインおよびアカウントによって電子メールを送信し、受信できます。
- Windows ホストかサーバから通常管理される Windows PowerShell に、アクセスして下さい。
- 公共/私用 認証を作成するドメイン アクティブなパブリック/私用 認証に署名するのに使用される認証およびプライベートキーまたは認証に署名するのに使用されるプライベートキーを保存する機能および能力。

紺碧 AD に戻って ESA メールボックス コネクタを設定するために次の 4 つの値を作成します:

1. クライアント ID
2. 借用者 ID
3. 拇印
4. .pem 形式の認証 プライベートキー

これらの必要な値を構築するために、この資料のステップを完了する必要があります。 開始する前に、Windows Powershell で次を実行する必要があります:

1. `$cer = 新しいオブジェクト System.Security.Cryptography.X509Certificates.X509Certificate2`
2. `$cer. インポート (「C:\path_to_cert\PEM_certificate.crt」)`
3. `$bin = $cer.GetRawCertData()`
4. `$base64Value = [System.Convert]::ToBase64String($bin)`
5. `$bin = $cer.GetCertHash()`
6. `$base64Thumbprint = [System.Convert]::ToBase64String($bin)`
7. `$keyid = [System.Guid]:: NewGuid().ToString()`
8. `エコー $base64Value`
9. `エコー $base64Thumbprint`
10. `エコー $keyid`

注: #2 に関しては、認証にパスと「C:\path_to_cert\PEM_certificate.crt」を取り替えて下さい。

`$base64Thumbprint = 拇印`。 必要な値の前提条件リストにこの値を追加して下さい。

ヒント : それらがコンフィギュレーションのステップの必要とされた以降であるので、出力を `$base64Value`、`$base64Thumbprint` および `$keyid` のためにローカルで保存して下さい。 現時点で、認証の .crt が完了します。 利用可能なので認証の関連する .pem を、コンピュータのローカル フォルダー持って下さい。

背景説明

Microsoft 割り当ては紺碧ポータル の 2 バージョンにアクセスします:

- <https://manage.windowsazure.com> (標準的なポータル)
- <https://portal.azure.com> (新しいポータル)

左手ツールバーによって新しいポータルから「標準的なポータル」にアクセス選択します「紺碧 アクティブ ディレクトリ」を > 標準的なポータルできます

この資料の目的で、アプリケーションの登録および設定は新しいポータルでされます。「標準的なポータル」の使用へのステップはこの資料の終わりに含まれています。(標準的な紺碧ポータルをディセーブルにすることを Microsoft はいつかで選択するかもしれません。)

ESA の紺碧 AD およびオフィス 365 メールボックスの設定方法 設定

紺碧の新規アプリケーションを登録して下さい

1. 紺碧ユーザインターフェイスにアクセスして下さい: <https://portal.azure.com/>
2. 左メニューバーは、サービス > SECURITY + 識別を『More』をクリックします: **アプリケーション登録**
3. アプリケーション登録 ペインから、+Add をクリックして下さい
4. アプリケーションの名前を作成して下さい
5. アプリケーションタイプに関しては、Web app/API として去って下さい
6. サインオン URL に関しては、次の形式を使用して下さい: `https://<company_domain.com>/ManualRegistration`注: <company_domain.com> はドメイン ユーザがサインイン O365 ドメインにアクセスするためにできる O365 のドメインであり。
7. 『Create』 をクリックして下さい

アプリケーションのための必要なアクセス許可を設定して下さい

1. ちょうど登録したアプリケーションのために関連付けられる「表示名」をクリックして下さい
2. 設定ペインでは、API アクセスのために、**必要なアクセス許可**をクリックして下さい
3. +Add をクリックして下さい
4. 「API アクセス」ペインで、『SELECT』 をクリックします **API** を追加して下さい
5. 「選択すれば API」ペインで、クリックして下さい**オフィス 365 Exchange オンライン (Microsoft Exchange)** を
6. ページの一番下に『SELECT』 をクリックして下さい
7. アプリケーション権限に関しては選択して下さい:
 - すべてのメールボックスにフルアクセスと Exchange Web サービスを利用して下さい
 - ユーザとしてメール送信
 - すべてのメールボックスにメールを読み、書いて下さい
8. delegated 権限に関しては選択して下さい:
 - ユーザとしてメール送信
 - ユーザ メールを読み、書いて下さい
 - ユーザ メールを読んで下さい

• Exchange Web サービスによってユーザ署名のとしてメールボックスにアクセスして下さい

9. ページの一番下に、これ閉じます「選択します API」ペインを『SELECT』をクリックして下さい
10. ページの一番下に、これ閉じます「追加します API アクセス」ペインを『Done』をクリックして下さい
11. **アクセス許可権限**をクリックして下さい
12. 「プロンプト表示されたときワーキング ディレクトリのすべてのアカウントの myESA のために下記の権限を与えたいと思うためにか。この操作はこのアプリケーションが既に下記にリストされているものを一致するならない既存の権限をアップデートします。」、『Yes』をクリックして下さい

今 2 API 「Windows 紺碧アクティブ ディレクトリ」および「オフィス 365 Exchange オンライン」をリストしてもらはずです。

次の セクションを続行するために登録済みのアプリケーション ペインに戻る必要があります:

1. 「必要なアクセス許可」ペインを閉じるために「X」をクリックして下さい
2. 「設定」ペインを閉じるために「X」をクリックして下さい

登録済みのアプリケーション ペインに今あります。

アプリケーションの明らかなの準備をして下さい

明らかな編集して下さい

1. 登録済みのアプリケーション ペインから、ツールバーの明らかなをクリックして下さい
2. エディタで完全の明示します示されます。 12 ラインは「keyCredentials」であるはず。 次のラインだけ置き換えます 12: "keyCredentials": [
 {
 "customKeyIdentifier": "\$base64Thumbprint",
 "keyId": "\$keyid",
 "type": "AsymmetricX509Cert",
 "usage": "Verify",
 "value": "\$base64Value"
 }
],
3. 値と \$base64Thumbprint、\$keyid および \$base64Value を取り替える必要があります 示されているようにすべての値のまわりで引用符 ("") を、残して下さい各値がたった 1 つの行であること \$base64Thumbprint を含む特別な注意を、注意して下さい
4. アプリケーションをアップデートするために『SAVE』をクリックして下さい。 ツールバー エリアの「更新済みのアプリケーション」表記を正常に見るはずです。

次の セクションを続行するために登録済みのアプリケーション ペインに戻る必要があります:

「閉じるために編集します明らかな」ペインを"X"をクリックする。

(オプションの) 明らかなのダウンロードして下さい

ヒント : 明らかなのために内部紺碧エディタを使用正常にできた場合明らかなダウンロード

ドをスキップし、明らかアップロードすることができます。 そうでなかったら、手動で明らかなの編集する必要があり続行して下さい。

1. 登録済みのアプリケーション ペインから、ツールバーの明らかクリックして下さい
2. 編集明らかなメニューで『Download』 をクリックして下さい
3. 含むディレクトリに明らかなの認証保存して下さい。 これはコンピュータに .json 形式の明らかなのローカルで保存します。
4. ローカル エディタ (Wordpad++、 原子、 等) を使用する、からの完全なステップ 2 および 3 は「この資料の明らかな」セクションを編集します
5. 明らかな .json ファイルをローカルで保存して下さい

(オプションの) 明らかなのアップロードして下さい

ダウンロードすることを選択し、明らかなの手動で編集した場合、編集された明らかなのアップロードする必要があります:

1. ブラウザおよび紺碧ポータルに戻って下さい
2. から「編集します明らかな」ペインを『Upload』 をクリックして下さい

次のセクションを続行するために登録済みのアプリケーション ペインに戻る必要があります:

「閉じるために編集します明らかな」ペインを"X"をクリックする。

アプリケーションのためのクライアントID を得て下さい

1. 登録済みのアプリケーションから見つけて下さい「アプリケーション ID」を
2. コピーして下さいアプリケーション ID (アプリケーション ID = クライアントID) を
3. 必要な値の前提条件リストにこの値を追加して下さい。

アプリケーションの借用者 ID 値を取得して下さい

1. 「アプリケーション登録」ペインから、「エンドポイント」をクリックし、フェデレーション メタデータ ドキュメントに最初の行を選択して下さい
2. 外部エディタに行をコピー アンド ペーストして下さい
3. 「<https://login.windows.net/>」の後に ID ストリングである借用者 ID を取得したいと思います
4. 必要な値の前提条件リストにこの値を追加して下さい。

例 :

```
"keyCredentials": [
{
"customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",
"keyId": "$keyid",
"type": "AsymmetricX509Cert",
"usage": "Verify",
"value": "$base64Value"
}
],
```

この例に関しては、借用者 ID は "ed437e13-ba50-479e-b40d-8affa4f7e1d7" 才です。

必要な値を確認して下さい

値は今完了します。次の値を記入できるはずです:

- クライアントID
- 借用者 ID
- 拇印 (前提条件を参照して下さい)
- .pem 形式の認証プライベートキー (前提条件を参照して下さい)

ESA のこれらの値の設定によってオフィス 365 メールボックス設定を完了して準備ができています。

ESA を設定して下さい

1. ESA GUI: システム 管理 > メールボックス設定 > Edit 設定...
2. 入力して下さい前のセクション (クライアントID、借用者 ID、拇印) からで値
3. ロードして下さい保存された認証 (.pem) を
4. [Submit] をクリックします。
5. 「設定がうまく行われたことを見ます。変更を保存し、接続をテストして下さい」。
6. 上部右上隅から、保存しますテストする前に変更をクリックして下さい
7. "Check Connection..." をクリックする そして O365 ドメインと関連付けられる既知よい、はたらく eメールアドレスで入力して下さい
8. "Test Connection" をクリックする

接続ステータスという結果に終わります成功を受け取る必要があります:

```
"keyCredentials": [  
{  
  "customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",  
  "keyId": "$keyid",  
  "type": "AsymmetricX509Cert",  
  "usage": "Verify",  
  "value": "$base64Value"  
},  
],
```

ESA のトラブルシューティング

接続ステータスのための正常な結果はテストすることを見なければ、紺碧 AD から実行されたアプリケーション 登録を検討したい場合もあります。

ESA から、3 月ログをトレース レベルに設定し、接続を再検査して下さい。

不成功な接続に関しては、ログは類似したものを示すかもしれません:

```
"keyCredentials": [  
{  
  "customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",  
  "keyId": "$keyid",  
  "type": "AsymmetricX509Cert",  
  "usage": "Verify",  
  "value": "$base64Value"  
},  
],
```

(借用者 ID と同じである) アプリケーション ID、ディレクトリ ID、または紺碧 AD のアプリケーションのログからの他の関連する識別名を確認して下さい。値の不確実である場合、アプリケーションを門脈紺碧 AD から削除し、開始して下さい。

接続の成功に関しては、ログは類似したにであるはずです:

```
"keyCredentials": [
{
"customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",
"keyId": "$keyid",
"type": "AsymmetricX509Cert",
"usage": "Verify",
"value": "$base64Value"
}
],
```

トラブルシューティング紺碧 AD

注: Cisco TAC および Ciscoサポートは Microsoft Exchange、Microsoft 紺碧 AD、または オフィス 365 で加入者宅側問題を解決するために資格を与られません。

加入者宅側に関しては Microsoft 紺碧 AD においての、マイクロソフトのサポートを実行する必要があります発行します。 Microsoft 紺碧ダッシュボードからの「ヘルプ + サポート」オプションを参照して下さい。 ダッシュボードからのマイクロソフトのサポートに直接支援 要求を開けま ずかもしれません。

(オプションの) 標準的なポータルを使用して紺碧のアプリケーションを作成し設定する方法を

注: 正常に <https://portal.azure.com> (新しいポータル) にアクセスして紺碧ポータルを使用 できた場合これを完了する必要はありません。 これは紺碧管理者のためにだけ参照されま すまだ「標準的なポータル」を使用するために選択する。 紺碧 AD ポータルのこのバー ジョンを使用したい場合必要な値を完了するための次のステップバイステップの説明を見つ けて下さい:

アプリケーションを追加して下さい

1. [Microsoft 紺碧](#) にログインして下さい。
2. 左メニューバーから、**すべての ITEM** にナビゲートして下さい
3. ドメインのリソース名をクリックして下さい
4. リソース名の下ツール タブから、『Applications』を選択して下さい
5. 一番下ツールバー エリアから、『Add』をクリックして下さい
6. 「何を示されたときしたいと思いますか。」、**組織が開発しているアプリケーションを『 Add』** を選択して下さい
7. 「言いますアプリケーションについて私達に」情報を記入して下さい: アプリケーションの 名前を作成して下さいアプリケーションタイプに関しては、**Webアプリケーション**や **Web API** として去って下さい続くために矢印をクリックして下さい
8. アプリケーション プロパティを完了して下さい: サインオン URL に関しては、次の形式を 使用して下さい: `https:// <company_domain.com>/ManualRegistration`注 : `<company_domain.com>` はドメイン ユーザがサインイン O365 ドメインにアクセスする ためにできる O365 のドメインであり。APP ID URI に関しては、次の形式を使用して下さい:

https:// <company_domain.com>完了するためにチェックマークをクリックして下さい

アプリケーションを設定して下さい

1. カスタム Webアプリケーションが作成されたら、カスタム Webアプリケーション自体に自動的にナビゲートされます。ここから、ツール タブで、『Configure』を選択して下さい
2. クライアントIDはこの画面にリストされています。必要な値の前提条件リストにこの値をコピーし、追加して下さい。
3. 「他のアプリケーションへの権限」を見るためにスクリーンの一番下にスクロールして下さい。
4. アプリケーションを『Add』をクリックして下さい オフィス 365 Exchange オンラインを選択し、続くためにチェックをクリックして下さいアプリケーション権限に関しては、選り抜き: すべてのメールボックスにメールを読み、書いて下さいユーザとしてメール送信利用して下さいフルアクセスと Exchange Web サービスを...delegated 権限に関しては、選り抜き: ユーザとしてメール送信ユーザ メールを読み、書いて下さいユーザ メールを読んで下さいExchange によってユーザ署名のとしてメールボックスにアクセスして下さい
5. カスタム Webアプリケーションのためのすべての作業および設定を保存するために一番下 ツールバーから『SAVE』をクリックして下さい

明らかな管理して下さい

1. カスタム Webアプリケーションが保存およびアップデートを完了したら、**明らか > 一番下** ツールバーから**明らかなダウンロード** 『Manage』をクリックして下さい
2. 応答によってナビゲートし、ローカル コンピュータに .json 形式で明らかな Webアプリケーションを保存して下さい。
3. ローカルで、.json ファイルを見つけ、テキストエディタと開いて下さい。（望ましい Notepad++、原子、等）
4. 「keyCredentials」行を検索し、見つけて下さい
5. *\$base64Thumbprint*、*\$keyid* および *\$base64Value* の使用によってカスタマイズする次の複数の回線が付いているこの単一行を置き換えます: "keyCredentials": [

```
{
  "customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",
  "keyId": "$keyid",
  "type": "AsymmetricX509Cert",
  "usage": "Verify",
  "value": "$base64Value"
}
```

],
6. *\$base64Value* を入力するとき、これが単一行値に編集されるために必要となります
7. .json ファイルをローカルで保存して下さい
8. ブラウザおよび Microsoft 紺碧ポータルに戻って下さい
9. **明らか > 明らかなアップロード** 『Manage』をクリックして下さい
10. 編集された .json ファイルを参照し、見つけて下さい
11. アップロードを完了するためにチェックマークを選択して下さい

借用者 ID を見つけること

1. 一番下ツールバーから、Microsoft 紺碧 AD で統合エンドポイントを表示するために**エンドポイント**を『View』をクリックして下さい

2. フェデレーション メタデータ ドキュメントに最初の行を選択して下さい
3. 外部エディタに行をコピー アンド ペーストして下さい
4. 「<https://login.windows.net/>」の後に ID ストリングである 借用者 ID を取得したいと思います
5. 必要な値の前提条件リストにこの値を追加して下さい

例 :

```
"keyCredentials": [  
{  
  "customKeyIdentifier": "$base64Thumbprint",  
  "keyId": "$keyid",  
  "type": "AsymmetricX509Cert",  
  "usage": "Verify",  
  "value": "$base64Value"  
}  
],
```

この例に関しては、借用者 ID は "ed437e13-ba50-479e-b40d-8affa4f7e1d7" 才です。

関連情報

- [オフィス 365 メールボックスの自動的に Remediating メッセージ](#)